

歴博暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会 暮らしの植物苑東屋 13:30 から

第117回 12月6日(土) 『サザンカの文化史』 箱田直紀 (元恵泉女学園大学)

第118回 1月24日(土) 『武蔵野の平地林の保全』 犬井 正 (独協大学)

今週のみどころ、冬の華・サザンカ <http://www.rekihaku.ac.jp>

『冬の華・サザンカ』展 開催中

12月2日～2009年2月1日(日)



カンツバキ展示ハウス



館長挨拶



岩淵展示代表



サザンカの解説
箱田直紀先生



“大空”サザンカ群



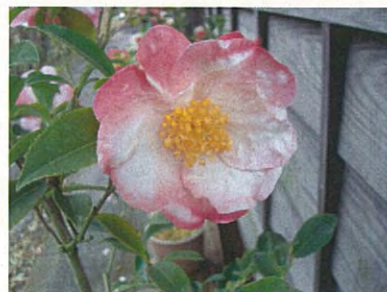
東屋周囲サザンカ展示



“華子姫”サザンカ群



“白楽天”サザンカ群



“快童丸”サザンカ群



“秋の粧”カンツバキ群

『冬の華・サザンカ』展で扱サザンカは春に咲くツバキの華やかさに対して、他の花の絶えた晩秋からの冬枯れの中で咲く花として、私たちの郷愁に訴えかけるような花です。サザンカは園芸的に4群に分けられています。

狭義のサザンカ群は、花は一重で花形が自生のサザンカに近く、10月から12月まで咲きます。樹形は立ち上がり気味の立ち性です。花色は白が基本で白から紅ぼかしで、がくから花びらまでの分化が不安定です。雄しべが花弁に変わらず花弁数の多い一重から半八重咲、花弁と雄しべはばらばらに散ります。



快童丸



重ね扇

カンツバキ群は、植物分類上からはサザンカ群と区別できない、雄しべの多くが花弁に変わって八重咲となり、開花期もやや長く樹形が比較的横に広がるという特徴があります。花色は白から紅までで、雄しべの一部が花弁に変わり、八重咲きから獅子咲きになる。花弁とおしべはばらばらび散ります。

ハルサザンカ群は、江戸時代に生まれたものが多いサザンカとツバキとの自然雑種やその後代と考えられています。花形は様々で樹形も中間的な特徴をもっていて、12月から3月まで咲き続けます。花色は白から紅、縦絞り、ふち紅ぼかし、ツバキに近いものからサザンカに近いものまで様々で、一重咲から八重咲きまであります。多くは花弁と雄しべが互いに付いて散ります。



星飛竜

タゴトノツキ群は、サザンカに似ていますが、中国原産で種子から油を絞るために栽培されてきた系統で、植物学的には別の種なのですが、園芸的にはサザンカとして扱います。サザンカの故郷は四国や九州などの暖地ですが、人がサポートすればそれなりに越冬して栽培が可能ですが、樹齢200年以上の古木の存在は関東地方北部あたりが限界のようです。

